

世界遺産富士山を守り継ぐ



富士山世界遺産センター シンボル絵画「富士北麓参詣曼荼羅」
(画家・山口 晃氏作)の前で

「富士山世界遺産センター」オープン

平成25年6月22日、「富士山」が世界遺産として登録決定されました。登録から3年目となる今年6月22日、富士山の多様な自然と歴史や文化を感じながら、世界遺産富士山の価値を分かりやすく紹介する「富士山世界遺産センター」が、富士河口湖町にオープンしました。

初代所長には、国が設置した総合地球環境学研究所・名誉教授の秋道智彌さんが就任。富士山世界遺産センターに懸ける思いを伺いました。

「情報発信と交流の場」としての役割を担うセンターを目指して

富士山世界遺産センターは、ただ展示を見ていただくだけの施設ではなく、ハブ機能の役割も果たしていきたいと考えています。それは、ここに人が来て出会い、情報交換をしたり、お互いが啓発し合うことから富士山について考えるような場、つまりハブ空港の待合室のような場にしたと思っていますからです。

今日も小学生が来てくれています。

ここでの学びが未来の山梨を担っていく子どもたちの人格形成にも役立つように、子どもたちの将来を視野に入れたセンター運営をしていきたいですね。

また、高齢者の方にとっても、興味深い学びの場として利用してもらえよう。展示内容の充実も図りたいです。

訪れた方が誰でも楽しく学べる先端的なシステムを活用



秋道 智彌さん Tomoya Akimichi

京都府出身。総合地球環境学研究所(京都市)名誉教授。2013年、富士吉田市で開催された国際コモンズ学会北富士大会で、共同議長を務めた。

公式ガイドアプリ『ふじめぐり』では、館内の展示や野外の構成資産を巡るコースを紹介。スマートフォンやタブレット端末を使い、分かりやすい説明を自分のペースで聞きながら見学することができます。日本語・英語・中国語(簡体字・繁体字)・韓国語・インドネシア語・タ



イ語の7つの言語で対応しているの、海外から訪れた方にも世界遺産富士山の新たな魅力を、余すことなく伝えることができます。また、館内の展示にはタッチパネルを用いるなど、遊び感覚で学べる要素を多く取り入れています。

表情豊かな富士山のように常に活動しているセンター

富士山が季節ごとにその表情を変えていくように、センターでもさまざまな情報を機敏に発信できるように企画を考えています。具体的には来年3月までの間に、企画展写真展の開催を予定しています。また、それぞれの企画展に対応して常設展示の一部も変えていきます。例えば、「巡礼路」の企画展の際

には、巡礼の道についての書籍や地図などを、富士山ライブラリーに置くなどの工夫もしていきます。「常に活動しているセンター」として、訪れた方に最新あるいは重要な情報を積極的に提供することで、一度だけでなく、二度三度と足を運んでもらいたいと思います。

富士山を知ることで見つめ直す日々の暮らし

自然界と私たちの生活は、つながっています。富士山をより深く知ること、山梨の産業や文化などさまざまなことについて、もう一度見つめ直す機会になるのではないのでしょうか。世界遺産富士山を誰よりも誇りに思う県民の皆さんには、ぜひ、センターを訪れていただきたいですね。



平成28年度の企画展

- 開館企画展 世界遺産富士山
— 祈りの世界の山開き —
6月22日～8月22日
- 富士山レンジャー写真展
9月28日～10月24日
- 企画展 探訪 富士山巡礼路
平成29年1月1日～2月27日

富士山世界遺産センター 常設展示
木造 浅間神像(複製品)
(原資料:重要文化財 江原浅間神社蔵)
現存する最古の富士山の神・浅間神の像



富士山世界遺産センターへ

ようこそ



富士山世界遺産センターは、北館と南館に分かれています。既存の富士ビクターセンターは北館となり、引き続き観光などの情報を得ることができます。新たに建設した南館では、富士山の中腹を巡る信仰の道「御中道」を模した2階の回廊を一周した後、1階展示フロアを巡ること

で、富士山の自然と人との関わりの歴史や文化、そしてその広がりを知ることができます。オープンして間もないセンターを訪れた、富士山の麓の小学生たちを秋道所長がお出迎え。鳥居の形をモチーフにした富士山ゲートをくぐって、富士山の信仰と芸術の世界へ出発です。

富嶽三六〇と胎内ビジョン

富嶽三六〇（ふがくさんろくまる）は、実際の富士山の千分の一の大さきで作られた、センターのシンボルオブジェ。ぐるっと見て回ると富士山の地形を確認でき、光と音の印象的な演出により、いろいろな顔を持つ富士山の多様性を感じ取ることができます。

また、内側には「胎内ビジョン」を設置。巨大スクリーンでは「再生」をテーマに、富士山の信仰と芸術の映像を、富士山の内部に潜り込んだような感覚で見ることができます。



季節によって変化する富士山のイメージを、色鮮やかに映し出す富嶽三六〇。学芸員の説明を聞きながら、見学する子どもたちは、「赤色や青色に変わる富士山がきれい」と歓声を上げながら楽しんでいました





御中道回廊

富士山の中腹を時計回りにひと巡りする信仰の道、「御中道」を模した回廊。壁面には、富士山誕生、噴火と浅間神社、信仰と芸術、観光の広がりや開発といった、富士山の自然と人との関わりの歴史についてテーマごとに写真と年表で紹介しています。



富士講信者の旅・登拝

江戸時代の終わり頃（今から200年ほど前）に富士山に参詣した人物の日記を読み解き、江戸から富士山までの旅の様子をジオ

ラマで表現しています。ジオラマの裏面では、旅の様子に関する映像や情報を画面で詳しく紹介しています。



長い回廊の壁面を埋め尽くした富士山の写真や、自分たちが住んでいる地域の昔の写真に、興味津々な子どもたち



信者たちが訪れた「船津胎内樹型」。信者たちは、登拝前にここに潜り、生まれ変わりを願った。「昔の人は、富士山をととても大切に思っていたんだね」と子どもたちは、感慨深そうな様子でした



動画や音声を駆使した展示

富士山世界遺産センター：オリジナル・ガイドアプリ『ふじめぐり』（無料）をスマートフォンやタブレット端末にダウンロードすると、館内の展示や、構成資産などを巡る見学コースを動画や音声で楽しめます。ナビゲーターは、テレビ番組のスポーツコメンテーターなどで活躍している松岡修造さんです。

1階床一面に広がる富士山を中心とした直径22mの地図では、25の構成資産や巡礼路などを紹介しています。また、床に設置している『ふじめぐり』にスマートフォンなどをかざすと、展示案内が自動的に始まります



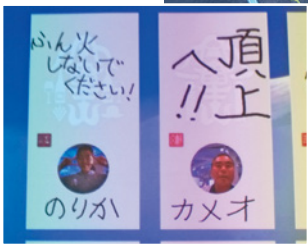
子どもたちも『ふじめぐり』を使って展示を巡回。「富士山百人百話」では、富士山ゆかりの人物が、3Dで浮かび上がるコンテンツにくぎ付け。「富士山に来ていた昔の人のことがよく分かったよ。」と、見入っていました



「富士山センゲン」をしよう！

「富士山センゲン」は、来館者の皆さんが富士山への思いを共に感じて、共につくるのがコンセプト。富士山へのメッセージや展示の感想などをタッチパネルの画面に書くのと、顔写真と一緒にセンターオリジナルのデザインでスクリーンに表示されます。富士山センゲンは、スマートフォンや自宅のパソコンからも見ることができます。

学芸員の説明をはじめ、タブレット端末などを使って富士山のこと



を学んだ子どもたち。富士山に対し、普段とは違った思いが生まれたのではないだろうか。真剣なまなざしでメッセージを書き込む子どもたちは、どんな富士山センゲンをしたのでしょいか。

皆さんも来館した際には、「富士山センゲン」してみてくださいね。

今日から私も富士山だ!



①スマートフォンまたはタブレットに「Layar」のARアプリをダウンロード（無料）②アプリを起動③右の写真にかざした後、画面をタップすると動画が再生されます。



動画で見よう! 富士山世界遺産センター



芸術の源泉・富士山 富士山百画

富士山のさまざまな絵画作品を、三面のマルチスクリーンで紹介しています。

芸術の源泉・富士山 富士山を語る言葉たち

富士山は、数多くの物語や和歌・俳句などに紹介されてきました。「富士山を語る言葉」を集め、富士山のイメージが時代とともに移り変わってきたことを紹介しています。



世界に広がるふるさとの富士(左)

全国各地には、「富士」の名前が付いた「ご当地富士」と呼ばれる山々があります。1階フロアには「ご当地富士」のパネルを、富士山から見た方向に展示しています。

富士山を未来へ 富士山の保護・保全(右)

富士山の風景の変化や、山麓に伝わる伝統行事、また富士山を護り伝える人々の活動を、ワイヤーでつるしたプレートで紹介しています。



富士山世界遺産センター Fujisan World Heritage Center

シンボルマーク「うかびあがる富士」

グラフィックデザイナー 佐藤 卓氏デザイン

富士山は、形のみさだけではなく、25の構成資産により世界遺産に登録されました。シンボルマークは、富士山そのものを表現するのではなく、太陽を背景にそのシルエットを浮かび上がらせました。そして、シルエットの裾野に当たるところに25の構成資産を表すポイントをつけた結界をあしらい、奥行きをもった一つの景色としました。



■観覧料

南館入館料	一般	大学生	高校生以下
当日券	420円	210円	無料
団体 (10名以上)	330円	170円	

※北館は入場無料

■休館日

南館：第4火曜日 北館：年中無休

■開館時間

4月 1日～6月30日	8:30～17:00
7月 1日～7月15日	8:30～18:00
7月16日～8月26日	8:30～19:00
8月27日～9月30日	8:30～18:00
10月1日～3月31日	8:30～17:00

南都留郡富士河口湖町船津 6663-1

TEL 0555-72-0259 FAX 0555-72-0211



富士講文化を生かした「旅」の提案



富士山が世界遺産に登録されたことへの認識度が高まる一方、信仰の対象としての「山」であることを、多くの方に知っていただくためには、どうしたらよいのか。そこで、富士講の巡礼路を実際に歩き、富士山信仰への理解を深めてもらうと考え、昨年度、「リバーズ！富士講プロジェクト」を発足しました。この取り組みについて、世界遺産富士山課の山崎さんに伺いました。

富士講の思いを感じるモニターツアーを実施

昨年度、モデルコース設定に向けたモニターツアーを実施しました。

一泊二日のツアーでは、富士講の宿坊である「御師おしの家」に宿泊し、伝



統的な御師料理をいただき、江戸時代から残されている版木の模様を白い行衣に刷り、その行衣を着て巡礼路を歩きました。以前、富士講の方に、どのような思いで富士山に登っているのかを尋ねたところ、「生まれ変わることはできないが、何か得るものがあります。生まれ増すという思いで登ります」と答えてくれました。

東京オリンピックピックの年を目標にモデルコース設定

富士山にはたくさんさんの観光客が訪れます。富士山への理解を深めていただくため、ガイドの育成には、一層力を入れていきます。ガイドの説明を聞くことで普段見過ごしている事からも新しい発見が生まれます。今後もリバーズ！富士講プロジェクトを充実させ、東京オリンピックが開催される2020年を目標に富士山世界遺産センターを起点とした富士山信仰の歴史や文化を学ぶモデルコースを作っていきたいと思っています。



世界遺産富士山課
山崎 康児 主任

REBIRTH! 富士講プロジェクト

昨年度は、「富士みちと内八海巡りツアー ～自分のなかに、何か生まれ増す旅～」、「道者道を歩く日帰りツアー ～胎内をくぐり、生まれ変わる旅～」の2つのモニターツアーを実施しました。

北口本宮富士浅間神社の参道を
行衣を着て歩いてみる

(下左)
北口本宮富士浅間
神社でガイドから
説明を受ける

(下中・下右)
御師の家の中を
案内してもらい
版木刷り体験



富士山保全協力金にご協力を



協力者証 富士山の間伐材を使った木札

- 実施期間 7月1日～9月10日
- 対象者 5合目から山頂を目指す登山者
- 金額 基本 1,000円
- 受け付け
現地受け付け(5合目・6合目、富士北麓駐車場)
事前受け付け(インターネット、コンビニ)
※受付時間等は、ホームページ等でご確認ください。

(右上) 環境学習会

(下左) 軽装登山者への注意

(下右) マナー周知



富士山が世界の宝で あり続けるために

富士山の環境保全と自然保護に取り組んでいる富士山レンジャーの方に、活動や抱負について、伺いました。

富士山レンジャーの仕事

富士山レンジャーは、女性2名、男性5名の計7名で活動しています。主な仕事は、富士山と富士北麓地域の巡回です。不法投棄、動植物の違法採取、車両の違法乗り入れなどの監視活動のほか観光客や登山者に対し、富士山の自然を守るためのマナー啓発を行っています。開山期は、5合目以上の登山道の巡回や、安全な登山のためのレクチャーも行います。

巡回をしている 感じる課題

特別保護地区におけるルールが知られていないことに問題があると思います。巡回していると、溶岩の持ち出しや植物の採取などの違反行為に遭遇します。近年、海外からの観光客の増加に伴い、外国人への注意が増えています。多くの方に自然公園法の知識を深め



富士山レンジャー
広中 歩さん 志熊 之廣さん

環境保全の意識を 育むための活動

高めていきたいと思っています。

私たちレンジャーは、動植物や火山などの自然環境保護を担っていく上で必要な専門知識を持っています。環境保全の意識を育むことを目的とした富士山世界遺産センターでの学習会、企業や学校に出向いての出張講座などを開催しています。十分な知識を身に付けることで、富士山との触れ合いがより楽しいものになると思います。

これからの抱負

富士山や富士北麓地域を訪れる方に自然公園法のルールがしっかりと根付くように努力し、登山者が安全で楽しく富士山に登り、帰ってもらえるように目を配ってまいります。